

令和5年度第3回上小医療圏 地域医療構想調整会議	資料 1-2
令和6年3月14日	

各医療機関における対応方針について
(上小圏域)

目次

<病院>

- p. 3 上田病院
- p. 5 信州上田医療センター
- p. 7 柳澤病院
- p. 9 上田市立産婦人科病院
- p. 11 上田花園病院

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

14

医療機関名： 医療法人健静会上田病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
72	35	37	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
72	0	28	7	37	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	5	1.2	31	11.1	6	6.8	4	7.1

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,外科,心臓・血管外科,消化器外科（胃腸外科）,肛門外科,整形外科,小児科,婦人科,皮膚科,泌尿器科,膠原病・リウマチ科,リハビリテーション科,放射線科,麻酔科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

・当院は、急性期から地域包括ケア病床、慢性期まで対応する病院であり、病院群輪番制参加病院として軽症～中等症の入院を要する救急患者に対応している。
 ・在宅医療は、訪問診療を中心に訪問看護と協力しながら対応している。
 ・複数の介護系の事業所があり連携して対応している。

②課題

・継続的な医療従事者の確保が必要。（特に夜勤が出来る人）

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	◎
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	○
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

・引き続き、軽症～中等症の入院を要する患者への救急医療や、長期療養が必要な慢性期患者の受入等の機能を発揮していきたい。

(2) 2025年における非稼働病棟への対応

①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

③非稼働病棟における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病棟を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病棟の方針が未定の場合のみ選択

④ {再稼働} を選択した場合：再稼働後の当該病棟における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

{検討中} を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	28	28	0		28	0	0	
回復期	7	7	0		7	0	0	
慢性期	37	37	0		37	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	72	72	0		72	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例：2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

16

医療機関名： 独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
420	416	0	0	0	4

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
416	38	284	0	0	94

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	73	0.2	314	15.9	0	0.8	0	25.9

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

緩和ケア内科,内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科,腎臓内科,脳神経内科,糖尿病・内分泌代謝内科,血液内科,外科,呼吸器外科,心血管外科,乳腺内分泌外科,消化器外科,脳神経外科,整形外科,形成外科,小児科,産科,婦人科,眼科,耳鼻いんこう科,皮膚科,泌尿器科,精神科,心療内科,歯科口腔外科,リウマチ科,リハビリテーション科,放射線診断科,放射線治療科,麻酔科,病理診断科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

・当院はHCU24床・NICU6床を要する高度急性期～急性期医療機関であり、上小医療圏において次の役割を担っている。
 [二次救急輪番後方支援病院] 二次救急輪番病院の後方支援病院として、1年365日24時間、地域の救急医療を支えている。／ [地域がん診療病院] 5大がんの他、婦人科がん等を中心に、上小医療圏内のがん患者の約半数（48.8%）の診療を担っている。／ [地域医療支援病院] 大型医療機器の共同利用、開放病床による共同診療（セミオープンシステム）により地域医療連携を推進している。／ [地域周産期母子医療センター] 上小医療圏内のハイリスク分娩を一手に引き受けている。／ [地域災害拠点病院] 被災地へDMAT派遣し、発災時には被災者に医療を提供する役割を担う。／ [新型コロナウイルス感染症重点医療機関] 8床の即応病床を確保し、軽症～中等症の新型コロナウイルス感染症患者の治療にあたっている。上小医療圏内では唯一、周産期（産科、小児科）および透析患者の新型コロナウイルス感染症治療に対応している。

②課題

・病床利用率が常時90%を超え、救急搬送の受入を停止せざるを得ない時間帯がしばしば生じる。
 ・医師、看護師等医療従事者の確保が課題。医師については、当院の診療機能の充実のため、特定の専門領域（放射線診断医、救急専従医等）を確保する必要がある。また、附属看護学校が令和5年度をもって閉校するため、看護師の確保は更に困難になると予想される。看護師養成課程をもつ大学等への働きかけをより積極的に行うことで必要配置数を確保しなければならない。
 ・急性期後患者の診療を回復期医療機関へ受け渡す仕組みを構築する必要がある。それにより在院日数を短縮、空き病床を確保することができ、救急を含む急性期患者の受け入れが可能になる。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当のものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。（該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。）

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	◎
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	○
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

・上田市立産婦人科病院の閉院に伴い、ハイリスク分娩を中心として医療圏内の分娩機能（27床分）が当院に集約される。分娩件数の増加に対応するため、分娩室を増やすため産科病棟の改修を予定している（2023年度）。
 ・新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、急性期機能の拡充のため、休床病棟（50床）、新型コロナウイルス感染症即応病床稼働のため休床となっている病床（24床）およびその他休床病床を順次一般病床（急性期）として再稼働する予定（2023年度～）。

(2) 2025年における非稼働病棟への対応

①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無
有
有

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

西2階病棟（50床）を新型コロナウイルス感染症の即応病床として利用していたが、令和5年5月8日より5類の扱いになったことに伴い、新型コロナウイルス感染症即応病床を急性期一般病棟内に移したため、現在は非稼働病棟となっている。

③非稼働病棟における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病棟を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病棟の方針が未定の場合のみ選択

④ {再稼働} を選択した場合：再稼働後の当該病棟における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

{検討中} を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

救急搬送受け入れ停止時間を解消するため、一般急性期病床としての再稼働を検討している。

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	38	30	-8	未定	30	-8	0	
急性期	284	386	102	未定	386	102	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	94	0	-94	未定	0	-94	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	416	416	0		416	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。（記入例：2027年7月）

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

17

医療機関名： 医療法人健教会柳澤病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
98	33	65	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
98	0	33	0	65	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	2	3.9	35	6.4	15	0.8	27	0.6

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

内科,循環器内科,消化器内科（胃腸内科）,神経内科,糖尿病内科（代謝内科）,外科,整形外科,形成外科,リハビリテーション科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は、循環器内科・消化器内科を中心に外来診療を行いつつ、生活習慣病である糖尿病内科、高齢者に多い疾患をフォローアップする整形外科があります。さらには健診・人間ドック等、疾病の予防・健康増進にも取り組んでおります。入院機能については上田地域広域の二次救急も担いつつ、ポストアキュート患者の受け入れの16床、急性期医療機関を経過、または在宅・介護施設等からのサブアキュート患者の受け入れとして地域包括ケア病床を17床を有しております。また、長期にわたり療養を必要とする患者を受け入れるための医療型療養病床を65床があり、急性期から亜急性期、慢性期を包括的に支える入院施設を目指しております。そして急性期を経過し在宅で安心して暮らせるために、デイケア、訪問看護ステーション、訪問看護リハビリテーションも整え、医療から介護、介護から医療へとシームレスなサポートも心掛けております。また、地域と医療機関、施設等の連携を厚くするために医療介護連携相談センターを置き、入院支援ならびに介護支援を行えるよう体制を整えております。

②課題

・医療従事者の確保
 常勤医師の確保に難。非常勤医師においては働き方改革を行っていくなかで、派遣元の医療機関の勤務時間問題(夜勤or宿直)。その他の有資格従事者の確保に1,000千円弱/1人の経費が必要(診療報酬から捻出するには負担増)。
 また、看護補助者においては、無資格者で可となるものの、なり手が減少(無資格者がゆえに職種の選択肢が多い)。無料職業紹介を行うハローワークが機能しているのか疑問視されるところです。
 外国人技能実習制度はあるもののその経費(管理費)増ならびに労働の質(医療となると介護以上のコミュニケーションが必要となるため)の不安。育児・介護休業法の改定に伴い欠員者の補充に難があり(人件費増加)。また、復帰後をフォローするための保育施設の整備を考えるも自院で整備するには経費倒れとなってしまうこと。
 ・施設の老朽化
 外来診療棟ならびに療養病棟となっている南病棟は昭和56年10月に竣工し、現在、耐震診断、耐震補強、スプリンクラーを整備することで生命の安全を確保しております(県の補助金を活用)。しかしながら、その他空調設備、配管設備、外・内装は老朽化しておりその改修費用を捻出することが現状では無理といえます。
 ・病床の再編(勤務医の個室用医局の整備含む)
 高齢者の人口の高止まりにおいて、それら在宅を支えるうえにおいて短期入院を必要とする一般病床を確保することが急務と考えます。現在は一般病床は33床であり、特に急性期医療を行う病床は16床と輪番指定病院として地域の医療を支えていくには飽和状態が継続中です。また、病病連携においても、高次医療機関である独立行政法人信州上田医療センターの後方支援として転医後の患者の治療を一般病床(特に地域包括ケア)で診ており、今後益々一般病床のニーズは増えると危惧しております。一方、医師の働き方を推進していくには、勤務医の増員も必要となり、その労働環境を改善していくには、65床ある療養病床を一部削減し、医師の個室を整備する必要性に迫られております。よって、当院に与えられた許可病床数内での再編を提案したいと思います。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	○
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	◎
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	○

【具体的な今後の方針】

地域の医療を担う当院の役割、その方向性に高齢者が多く輩出される上田市においてのズレは生じているとは考え難い。よって現状での計画を推進する。

(2) 2025年における非稼働病棟への対応

①非稼働病棟の有無（2022.7.1時点）

非稼働病棟の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

③非稼働病棟における2025年の方針

※ 上記設問の(2)①にて、非稼働病棟が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病棟を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病棟の方針が未定の場合のみ選択

④「再稼働」を選択した場合：再稼働後の当該病棟における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

「検討中」を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2)③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	33	35	2		35	2	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	65	63	-2		63	-2	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	98	98	0		98	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例：2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

18

医療機関名： 上田市立産婦人科病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
27	27	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
27	0	27	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	1	2.7	22	2.3	0	0	0	0.9

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

産科,婦人科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

当院は、2000年8月に母乳育児の普及と推進に取り組んでいる施設として、「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」の認定を受け、出産される方が満足いただけるお産であり、楽しい子育てのきっかけづくりができるよう母乳育児の推進と心に寄り添った医療の提供に取り組んでおります。

具体的には、当院独自の出産育児日記の配付、各種学級（プレママクラス、ファミリークラスなど）の開催、カンガルーケアの実施、分娩直後からの母児同床など、お母さんと赤ちゃんが互いの温もりを感じながら、母子の絆がより深まるお産を提供しています。

②課題

少子化等による出生数の減少が続いている現状に加えて、行政機関単独病院では継続的な医師確保が極めて困難な状況から、帝王切開等のリスクがある妊婦については基幹病院等に紹介せざるを得ない状況となっており、当院の分娩件数は減少傾向が継続し、結果的に経営状況の不調が続いている。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

当院として医師確保が困難であること、また、地域内の出生数減少に対応するため、令和6年3月までに閉院することを市として決定している。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④ {再稼働} を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

{検討中} を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2),③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	27	0	-27	2024年3月	0	-27	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		27	27		27	27	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	27	0	-27		0	-27	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例：2027年7月)

地域医療構想における2025年に向けた対応方針

医療機関番号

24

医療機関名： 整形外科上田花園病院

1. 自院の現状

(1) 許可病床数（令和4年（2022年）7月1日時点）

①病床の種別毎の病床数

合計	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
36	36	0	0	0	0

②病床機能毎の病床数

合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中
36	0	36	0	0	0

(2) 医師・看護職員の職員数（令和4年（2022年）7月1日時点）

職種	医師		看護師		准看護師		看護補助者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
人数	3	7	11	8	7	4	5	5

(3) 診療科目（令和4年（2022年）7月1日時点）

整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、内科、循環器科

(4) 自院の特徴と課題

①特徴

- (1) 地域包括ケア入院医療管理料2の届け出病床が32床あります
- (2) 運動器リハビリテーション料2を算定しています
- (3) 環器内科専門医師が常勤であるため、ある程度リスクのある患者様の手術が可能です。
- (4) 外傷、骨折を中心とした手術を年間190-200件行い、その中には診療所、介護施設からの紹介患者（約250件）も多く含まれています。手術患者の約半数（80-90件）は寝たきり原因となる大腿骨近位部骨折で、その平均入院期間は約45日（全患者の平均入院期間は約30日）、在宅復帰率は約90%であり、急性期から回復期までを行っています。

②課題

- (1) 常勤の看護師、介護職員の不足のため救急患者の受け入れが難しいこと、特に非常勤看護師が帰宅する午後4時以降は常勤職員の負担が多くなるため、多くを断っている状況です。

2. 今後の方針

(1) 自院の今後の方針

2025年・2030年を見据え、貴医療機関が圏域の中で担う役割について以下から該当するものを選択いただくとともに、具体的な今後の方針について記載してください。(該当する役割すべてに「○」、そのうち主たる役割を1つ選択のうえ「◎」を記載願います。)

今後の圏域における役割	回答欄
① 重症の救急患者への対応や手術など、高度・専門医療を中心とした急性期医療を担う医療機関	
② 救急患者の初期対応や比較的軽微な患者に対する急性期医療を担う医療機関	○
③ 在宅や介護施設等で急性増悪した患者（サブアキュート）や、急性期経過後に引き続き入院医療を要する患者（ポストアキュート）の受入機能を担う地域包括ケアの拠点となる医療機関	◎
④ 回復期リハビリテーション医療を提供する医療機関	
⑤ 長期にわたり療養が必要な患者（重度の障がい者（児）を含む）に対する入院医療を担う医療機関	
⑥ 特定の診療に特化した役割を担う医療機関（例：産婦人科、精神科等）	
⑦ かかりつけ医としての役割や在宅医療における中心的な役割を担う医療機関	

【具体的な今後の方針】

(1) 診療科については現状維持
 (2) 看護師、介護職員確保が可能であれば、病院群輪番制病院の当番日を増やしたい。

(2) 2025年における非稼働病床への対応

①非稼働病床の有無（2022.7.1時点）

非稼働病床の有無
無

②非稼働となっている理由

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

③非稼働病床における2025年の方針

※ 上記設問の(2),①にて、非稼働病床が「有」となっている場合に回答

方針	
再稼働	←再稼働する場合、再稼働後の病床機能を選択（一部のみ再稼働する場合もこちらを選択）
廃止	←廃止する場合、こちらを選択（非稼働病床を全床廃止する場合のみ選択）
検討中	←非稼働病床の方針が未定の場合のみ選択

④ {再稼働} を選択した場合：再稼働後の当該病床における役割等を記載（担う役割、医療従事者の確保見込み等）

{検討中} を選択した場合：方針が決まらない要因、いつまでに方針が決まる見込みかを記載

※ 上記設問の(2),③にて、「再稼働」・「検討中」を選択した場合に回答

(3) 2025年・2030年における許可病床数の予定

病床機能	2022.7.1時点 (A)	2025年 (B)	現在との差 (B-A)	変更時期1 (※)	2030年 (C)	現在との差 (C-A)	2025年との差 (C-B)	変更時期2 (※)
高度急性期	0	0	0		0	0	0	
急性期	36	36	0		36	0	0	
回復期	0	0	0		0	0	0	
慢性期	0	0	0		0	0	0	
休棟	0	0	0		0	0	0	
廃止		0	0		0	0	0	
介護施設等への転換		0	0		0	0	0	
合計	36	36	0		36	0	0	

※ 左欄で「0」以外の数値が入っている欄に変更予定時期を記入してください。(記入例：2027年7月)